



## 『思いはいのり、言葉はつばさ』

まはら三桃／著 まめふく／装画  
アリス館 ¥1,400(税別)

チャオミンは文字を習いに行く日をずっと楽しみにしていた。中国に伝わる女性だけの文字ニューシュ(女書)をテーマに、窮屈な日々の中で文字を学ぶ純粋な楽しさや、思いを言葉で綴り伝える喜びを知った少女の成長を描いた物語。



## 『貸出禁止の本をすくえ!』

アラン・グラッツ／著 ないとうふみこ／訳  
ほるぷ出版 ¥1,500(税別)

9歳の少女エイミー・アングー一日の中で唯一静かに過ごせるのは、図書室のお気に入りの椅子に座って本を読む時だけ。しかし突然大好きな本が保護者の意見により貸出禁止になってしまった。本を救うために、内気な彼女が立ち上がる。



## 『きつねの橋』

久保田香里／作 佐竹美保／絵  
偕成社 ¥1,400(税別)

平安時代を舞台に15歳の平貞道(「酒呑童子」の鬼退治で有名な源頼光の四天王の一人)の冒険を描く物語。化け狐を捕らえ、仲間と共に五の君(後の藤原道長)の鬼退治を助けた上に、大盗賊、袴垂とも対決したりと大活躍。



## 『草木とみた夢』

谷本雄治／文 大野八生／絵  
出版ワークス ¥1,600(税別)

日本の植物学の父・牧野富太郎。彼の原動力は植物の事をもっと知りたい、という好奇心だった。柔らかいタッチの絵と共に、幼い頃から植物に夢になり、研究を続け、日本初の本格的な植物図鑑を刊行した偉人の生涯をたどる。



## 『ことばハンター』

飯間浩明／著  
ポプラ社 ¥1,200(税別)

国語辞典を作っている人はどんな人?どのようにして作られる?編纂者自らが新しく載せる言葉の選び方、たった2~3行の説明文を書くことの苦悩、紙の辞書を使う面白さなど、国語辞典を作る仕事について解説する。



## 『こども六法』

山崎聡一郎／著 伊藤ハムスター／絵  
弘文堂 ¥1,200(税別)

小学校高学年以上の人に向けて噛み砕いて書かれた法律のイラスト付き入門書。法律は自由で安心な生活を守るためのルールだと再認識できる。児童虐待やいじめにも触れ、どんなことが犯罪になるか、子どもを守る方法が分かる一冊。



## 『すきっていわなきゃだめ?』

辻村深月／作 今日マチ子／絵 瀧井朝世／編  
岩崎書店 ¥1,500(税別)

こうくんが好き。一緒にいると楽しいし、彼が嬉しいこと悲しいことや好きなものが気になって、もっともっと知りたくなる。でも告白して嫌われたらどうしよう。誰もが一度は子どもの頃に考える疑問に答える本。



## 『ミイラ学』

タマラ・パウワー／著・絵 こどもくらぶ／訳・編  
今人舎 ¥2,000(税別)

エジプトのミイラ職人の息子の目線で描かれた本。文字として残されることなく代々語り継がれていったミイラ作り。作る際の儀式や道具等について精巧な絵とともにわかりやすく描かれている。

## その他のおすすめの本



### 『いつか、太陽の船』

村中季衣／作 こしだミカ／絵 新日本出版社 ¥1,500(税別)

### 『「お手伝いしましょうか?」うれしかった、そのひとこと』

高橋うらら／文 深蔵／絵 講談社 ¥1,450(税別)

### 『義足と歩む』

松島恵利子／著 汐文社 ¥1,500(税別)

### 『希望の図書館』

リサ・クライン・ランサム／作 松浦直美／訳 ポプラ社 ¥1,500(税別)

### 『月白青船山』

朽木祥／著 岩波書店 ¥1,900(税別)

### 『父さんはどうしてヒトラーに投票したの?』

ディディ・デニクス／文 PEF／絵 湯川順夫、戦争ホーネの会／訳 解放出版社 ¥1,800(税別)

### 『プラスチック・プラネット』

ジョージア・アムソン=ブラッドショー／作 大山泉／訳 評論社 ¥2,200(税別)

### 『ぼくにだけ見えるジェシカ』

アンドリュウ・ノリス／作 橋本恵／訳 徳間書店 ¥1,500(税別)

### 『ぼくは本を読んでいる』

ひこ・田中／著 講談社 ¥1,400(税別)

### 『昔はおれと同年だった田中さんとの友情』

椰月美智子／作 早川世詩男／絵 小峰書店 ¥1,400(税別)

### 『よのなかルールブック』

高濱正伸／監修 林ユミ／絵 日本図書センター ¥1,300(税別)

### 『わたしが障害者じゃなくなる日』

海老原宏美／著 旬報社 ¥1,500(税別)